

楷

第六十号

岡山大学
附属図書館報
OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

KAI
No. 60
2015
February



<写真>

濱ほう

海邊ニ生ス

小木ナリ七月

比細紫花ヲ

閑ク小實ヲ

結フ

「備前国備中国之内領内産物絵図帳」（岡山大学附属図書館所蔵池田家文庫より）

—目 次—

- 知の総合化と最先端科学—今から一二〇〇年前の話—
（附属図書館副館長 今津勝紀）…………… p.2
- 大原孫三郎が開いた図書館（植物研分館長 村田稔）…………… p.5
- マスカット…………… p.7
知好楽セミナー報告、中央図書館セミナー室・グループ学習室等の施設利用の
ルール変更、学生専用掲示板「コミュニケーションボード」設置等
- 会議・研修、編集委員会から…………… p.14

知の総合化と最先端科学 —今から一二〇〇年前の話—

今津 勝紀

一 空海と綜芸種智院

弘法大師空海は、平安時代初期に日本に真言密教を伝えた僧として著名だが、ここでは空海の学問について取り上げる。空海は、現在の香川県にあたる讃岐国の大豪族佐伯氏の出身で、一五歳で母方の舅にあたる阿刀宿禰大足について儒学を学び、一八歳で大学に入学する。当時の大学は、中央官庁である式部省の直轄組織で京に一つだけ設置され、現代風というならば哲学・史学・文学・法学・数学・語学など国家統治に必要な学問を教授した。

空海は大学で勉学に励むのだが、一人の沙門より「虚空蔵求聞持法」を授かることで、故郷の四国へと向かい、阿波国や土佐国で苛酷な修行にのぞむ。そこで強烈な宗教体験をえたことが空海の『三教指帰』に記されているが、三教とは儒教・道教・仏教のことで、空海はこのうちから仏教を選び、これを極めることを志して出家を遂げる。折しも延暦の遣唐使が派遣されることとなり、空海は留学僧に選ばれ、延暦二三年（八〇四）に入唐をはたす。そして、翌年には長安青竜寺の恵果法師より胎蔵界・金剛界・阿闍梨位の灌頂を授けられ、正統な密教をすべて受法する。本来であるならば、次の遣唐使が派遣されるまでが空海の留学期間であったが、それを切り上げ大同元年（八〇六）に帰国した。

空海が伝えた密教は手に印契を結び、口に真言を誦誦し、心を本尊に集中することで、衆生と仏が結びあう秘密の教えのことで、加持・祈禱などの修法をつうじて実践されるのだが、こうして伝わった密教は、日本の仏教を一新することとなる。そうした密教と空海の関係についてはよく知られるところだが、空海が開設した教育機関、綜芸種智院についてはあまり知られていない。空海の仏教と学問は、実にスケールの大きい知の体系に支えられていた。

空海は、嵯峨天皇・橘逸勢とともに三筆の一人とされ能書家としても有名だが、彼は漢詩文にもすぐれており、空海の文章を集成した『遍照發揮性靈集』には美文で綴られた綜芸種智院開設の式辞が伝わる。式辞では綜芸種智院での教育方針が述べられるのだが、それによると、まず「九流六芸は代を濟ふ舟梁。十蔵五明は人を利する惟れ宝なり」というように、九流六芸・十蔵五明の意義が述べられる。九流とは儒・道・陰陽・法・名・墨・縦横・雜・農といった基本的な学問分野のことであり、六芸とは礼・楽・射・御・書・数といった基礎教養で、これらはいずれも中国に由来する。また、十蔵五明は大乗菩薩の学ぶべき五種の学問、すなわち声明・医方明・工巧明・因明・内明で、インドに発生した学問のことである。現代風に言うならば言語学・工学・医学・論理学・仏教学といったところだろう。

これらの学問は人を救うたよりであり、人を利するとされるのだが、空海の面白いところは、「故に能く三世の如来は兼学して大覚を成じ、十方の賢聖綜べ通して遍知を証す」とあるように、過去から現世・未来の如来は、インド風の仏教学と中国風の世俗の学を兼学することで大いなる悟りをえることを述べたうえで、「未だ有らず、一味美膳を作し、片音妙曲を調ぶと

いふこと」と断じていることである。これはどういうことかという、五味（甘・酸・鹹・苦・辛）のうちの一つの味のみでは美膳はできない。また、音律の基本である五音（宮・商・角・徵・羽）のうちの一つの音では美しい調べにならない、というもので、一つのことを極めるだけでは役に立たないことを力説している。空海は兼学や六芸を綜べるこそが大切であると考えていた。

空海自身は、儒教・仏教・道教の三教のうち仏教を極めるのだが、空海の学問はそこに留まるものではなかった。現在ではこれらはいずれも科学にあらざるものとされるが、これまで人類は呪術や宗教を通じて万物を認識してきた。この三教は辺境アジアに位置する日本にとって、世界や自然・宇宙を理解する最先端の方法であり、憧れの最先端科学にはかならなかった。空海の仏教・学識は、広く当時のアジアの宇宙観・世界観に支えられたものであり、空海は「衆芸を兼ね綜べ」（大日経）、「一切種智を以て一切法を知る」（大般若経）ことを目指したのである。綜芸種智院は、当時のあらゆる学問を対象とした総合的な教育機関として構想されていた。

しかも空海は、「今、是の華城には但一つの大学のみ有り、閭塾有ること無し。是の故に貧賤の子弟津を問ふ所無し。遠坊の好事は往還するに疲れ多し。今此の一院を建てて普く童蒙を済はむ」というように、唯一の大学が貴族の子弟などに入学資格を制限していたのに対して、貧賤の子弟をも対象とした教育機関を構想していた。前近代の身分制社会において貧賤の子弟をふくめたボトムアップ教育を構想しえた点は実に画期的である。そのために、広く三教の書物を集め、道俗の教師を招聘し教育にあたらせることで、「昏夜を迷衢に照し、五乗鑣を並べて群鹿を覚苑に駟らむ」、すなわち、混沌とした世界に明るい導きの光をもたらし、迷える人々がみな悟りの世界に到達できるようにと考えたのである。

二 備僕射の二教と石納言の芸亭

綜芸種智院開設の式辞では、こうした高邁な理想が掲げられているのだが、その中に問答形式で理想を説明した部分があり、そこに「然れども猶事先覚に漏りて終に未だ其の美を見ず。何となれば、備僕射の二教と石納言の芸亭、此の如く等の院並に皆始め有つて終り無し、人去つて跡穢る」と理想を難じた部分が見える。これに対して空海は天皇以下の広範な人々の支援で学舎を支えることができると述べるのだが、ここにみえる備僕射の二教と石納言の芸亭はいささか岡山と岡山大学に関連があるので、この点にふれてみよう。

まず、備僕射の備は吉備の意味で、僕射は大臣の中国風表現である。つまり、吉備の大臣の意であり、奈良時代に右大臣にまでのぼった吉備朝臣真備のことを指す。もとは下道朝臣真備と称し、備中国下道郡の大豪族、下道氏に出自する学者・政治家である。二教は儒教と道教のことで、道観・道士といった道教を制度的に受容しなかった日本だが、真備の院ではそうした学問にもふれることができたのであろう。

真備は養老の遣唐使に従って留学し、次の天平の遣唐使が派遣されるまでの二〇年近くを唐で過ごした。日本に帰国後、真備は孔子を祀る釈奠を整備し、大学で講義を行うなど儒学を体系的に伝えるのだが、当時の儒学は後の朱子学のように洗練されていない原始的なものであった。唐代に易・書・詩・礼・春秋の五経の一番とされたのは易であった。易の根底にあるのは、陰陽二気による万物の説明であり、こうした気のあり方（=象）、すなわち気象をもとに未来を予測する技術である。易は、当時の人々にとっては、戦闘や戦争に直結するきわめて実用的な

理論であり、空海が大学で学んだ儒学はこのようなものでもあった。

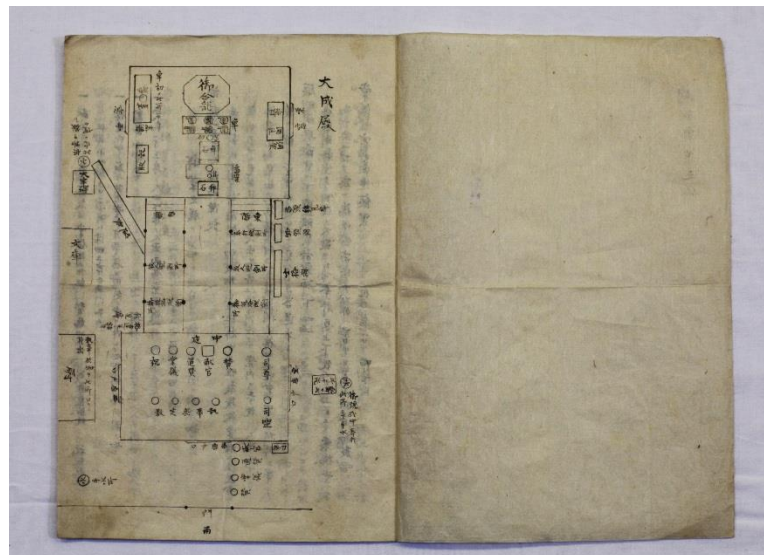
また石納言の芸亭だが、これは大納言、石上朝臣宅嗣の芸亭をさす。石上朝臣宅嗣は、奈良時代の政治家で、真備と同時期に活躍した。ともに藤原仲麻呂との政治闘争に巻き込まれた経験がある。宅嗣は、淡海三船とともに文人の首と称され、邸内に多くの蔵書を有する芸亭を設けるが、そこで学んだのが賀陽豊年であった。豊年は下級の貴族ではあったが、その学識と清廉な人柄から国華と称された。

賀陽氏は、備中国賀夜郡を代表する伝統的な名族であり、吉備津宮の神職を世襲し、鎌倉初期には臨済禅を宋より伝えた栄西などを輩出する。江戸時代には吉備津宮の神職は賀陽氏・藤井氏などに継承されるが、そこから本居宣長門下の高弟として知られる藤井高尚がでる。高尚は江戸時代後期の代表的国学者の一人であり、その旧宅が岡山大学開学時に本学に移管されている。さらに、開学時に第六高等学校教授から岡山大学教授へと転じた藤井駿先生（日本史）も吉備津の社家の出身で、法文学部長・附属図書館長を歴任され、大学開設時に岡山総合大学設立期成会を通じて寄贈された池田家文庫の整理にあたられた。

空海は綜芸種智院を支えるために広範な人々の協力をもとめたが、元来、岡山大学も広範な地域の人々の支援により成立したものである。空海が理想とした総合化による新たな学知の創出に自覚的であらねば、先達に申し訳が立たぬだろう。

(いまづ・かつのり 附属図書館副館長)

「閑校積菜之儀」(池田家文庫 R2-60)



積奠は積菜などとも称され、孔子を祀る儀式。この史料は、江戸時代に閑谷学校で行われた積菜の儀の詳細を伝えたもの。日本でこの儀式を整えたのが吉備真備。

大原孫三郎が開いた図書館

村田 稔

はじめに

倉敷に位置する「岡山大学・資源植物科学研究所（以下、植物研と略す）」は昨年、創立 100 周年を迎えました。国立大学法人に属する 86 の国立大学の中で、附属の研究所やセンターを有する大学は全体の三分の一ほど（29）ですが、附置研究所・センターの総数は 95 を数えます。これまで、100 年を超える歴史をもつ研究所・センターは、東京大学の史料編纂所（明治 12 [1869] 年設立）と医科学研究所（明治 25 [1892] 年設立）しかありませんでした。国立大学の研究所やセンターは、時勢を反映した最先端の研究を行う部局として設立されてきました。では、植物研はなぜ長い年月を経て残ってこられたのでしょうか？この研究所が創設された背景と創設者の思い、そして併設された図書館の役割を振り返ってみたいと思います。

研究所創立と図書館

植物研の前身は、財団法人大原奨農会農業研究所として、大原孫三郎氏によって大正 3（1914）年に創立されました。その後、昭和 4（1929）年に財団法人大原農業研究所と改称しましたが、昭和 27（1952）年に岡山大学に移管され、農学部附属大原農業研究所として発足し、次の年に岡山大学農業研究所となりました。

大原孫三郎氏は、日本初の近代西洋美術館である大原美術館を創設（昭和 5 年）したことで有名ですが、大地主であったことから農業についても近代化の必要性を感じ、『農業の研究と応用によって農事の改良』を目指してこの研究所を設立しました。孫三郎氏は、研究所の設立に際し、土地や建物など莫大な寄付を行っていますが、同時に、研究所員の研究をサポートし、農学の発展を促すため、研究所敷地内に図書館（コンクリート煉瓦建て 3 階延 93 坪の書庫、閲覧室と製本室 18 坪の木造 1 階建て、写真）を新たに建築し寄贈しました。これが現在の岡山大学附属図書館資源植物科学研究所分館（植物研分館）の前身です。大正 10（1921）年のことでした。当初は、研究所の図書室にあった 1,000 冊余りの図書から始まりましたが、孫三郎氏はその後も寄付を続け蔵書は急速に増大しました。開設当初 3 年間の図書費は 54,000 円であったとの記録があり、これは現在の貨幣価値にすると 3,000 万円ほどになります（日本銀行企業物価戦前基準指数を基準として試算）。つまり、毎年 1,000 万円を図書経費にあてていたことになります。昭和 27 年の岡山大学移管時の蔵書総数は 114,430 冊（洋書 71,257 和漢書 43,173 冊）にもものぼり、その総額は 12 億余円にも見積もられたと言います。

貴重な収集図書

創成期収集された図書には、現在でも貴重なものが多く、代表的なものとして、ペッフアー文庫、大原漢籍文庫、大原農書文庫があります。ペッフアー文庫は、ドイツの植物生理学者であり、当時ライプツィヒ大学の教授であったヴィルヘルム・ペッフアー（Wilhelm Pfeffer）の蔵書 11,730 冊を集めたものです。この中には、チャールズ・ダーウィン（Charles Darwin）71 歳の

時の著作“*The Power of Movement in Plants*”* (1980)の初版本や“*The Formation of Vegetable Mould, through the Action of Worms, with Observations of their Habits*” (1881)も含まれています。また、自身の著作でありドイツ語初の植物生理学の教科書でもある“*Pflanzenphysiologie*” (1881)も含まれており、その中には多くの書き込みがなされ、著者のこの本に対する熱意が感ぜられます。この大作は、植物研（当時は資源生物科学研究所）の所長でもあった河崎利夫教授（故人）らの努力によって復刻され、ペッフアー自身の書き込みは“*Pfeffer's Notes on Pflanzenphysiologie*” (T. Kawasaki, Y. Masuda and M. Tazawa)(1994)としてまとめられました。また、“マルピーギ管”などに名を残しているイタリアの解剖学者マルピーギ (Marcello Malpighi) の論文集“*Opera Omnia*” (1687)も含まれています。

大原漢籍文庫は、当時の研究員西門義一氏（のちに第二代所長）らが中国に渡り収集した中国の明や清の時代に書かれた農業関係の書籍 4,720 点からなるコレクションで、『子書百家』(110 冊) や『大観本草』(12 冊) が含まれます。大原農書文庫は、主に江戸時代中後期に刊行された絵入りの農業書や食物本草書 2,576 冊からなるコレクションで、水戸光圀が絶賛したと言われる『農業全書』(宮崎安貞著 貝原樂軒補) も含まれています。

これら以外には、当時の研究員山口弥輔氏がドイツ留学中に収集した多数の図書がありますが、その中でも“*Physiotypia Plantarum Austriacarum*”は、オーストリアに自生する様々な植物を凹凸を含め正確にプリント**した本で、その精緻を極めた描写には息を呑むほどです。初版は 1855-56 年にウイーンで出版され、1873 年にはプラハでも拡大版が出版されました。分館に保存されているものは後者で、初版の倍にあたる 1,000 の図版が含まれています。



写真一昭和 39 年頃の図書館。後方右が最初に建てられた書庫、後方左は岡山大学移管時に大原総一郎氏（大原奨農会第二代理事）によって寄付された鉄筋コンクリート 3 階建て 50 坪の書庫。前方は閲覧室。右手のソテツは現在、植物研正門前に移植されています。

おわりに

大原孫三郎氏は、大原社会問題研究所と倉敷労働科学研究所も設立しています。前者は 1919（大正 8）年に大阪で創立されましたが、1949（昭和 24）年に法政大学に移り、現在に至っています。後者は、1921（大正 10）年に倉敷で創立されましたが、1936（昭和 11）年に日本学術振興会に寄託されたことから東京に移転し、財団法人労働科学研究所として現在に至っています。両研究所にも、やはり孫三郎氏の寄付によって、労働、社会問題や経済に関する多くの図書が西欧から収集され、図書館が設置されました。現在でも、植物研分館と同様、それぞれの分野で重要な情報を提供しています。

参考資料

- ・大原農業研究史 財団法人大原奨農会 1961 年

(むらた・みのる 植物研分館長)

* 「植物の運動力」(渡辺仁訳、森北出版)として出版されています。

** 19 世紀中頃のウイーンやロンドンで完成した“*natural printing*”という手法によって作成されました。乾燥させ平らにした植物標本を鉛板に挟み、型を取った後、銅版としたものを紙に移すという手間のかかる作業が必要でした。

マスカット

中央図書館セミナー室・グループ学習室等の施設利用のルール変更

中央図書館のセミナー室・グループ学習室等の施設利用について、より多くの方に便利にご利用いただくため、平成26年11月1日（土）から一部ルールを変更しました。

大きな変更点は下記の通りです。

- ・「グループ学習室」（本館3階、2～10人用個室）を、教職員も利用できることとした。
- ・「研究個室」（西館4階、1人用個室）を、学部学生も利用できることとした。
- ・最長利用可能時間を3時間に統一。（授業・イベントは応相談）

（詳細についてはこちら）<http://www.lib.okayama-u.ac.jp/documents/shisetsu-henko.pdf>

学生専用掲示板「学生コミュニケーションボード」設置

全学の学生が集まる図書館という空間を活かし、掲示板「コミュニケーションボード」を設置しました。学生がお互いの活動を広報し合い、新たなコミュニケーションが発生することを目的としています。掲示希望者が「貸出返却カウンター」へ掲示物を持参し、職員が内容確認の上掲示します。ぜひご利用下さい。

※掲示できる方は岡山大学学生のみです。



文献複写／現物貸借の受け取り時間の拡大について（中央図書館）

中央図書館では、平成26年10月1日（水）から、文献複写/現物貸借の受け取り時間の拡大を試行しています。日中の受け取りが難しい方は、下記の表をご確認のうえ、ぜひご利用ください。

受け取り時間	夜間、土日祝日を含む中央図書館開館時間以内（私費は条件があります）
受け取り条件	<ul style="list-style-type: none"> ●校費等の現金領収を伴わない場合 現物貸借の利用者（校費の文献複写は学内便で研究室にお送りします） ●私費の場合 <u>振込による前納が条件</u>となります。ご利用方法は以下のとおりです。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献複写／現物貸借申し込み時、振込希望の旨を申し出る 2. 資料到着後、図書館から料金と振込先をメール 3. 指定の口座に振り込む 4. カウンターで振込証明書を提示し、受け取る
※注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・振込手数料は申込者の負担となります。 ・中央図書館での申し込み/受け取りに限ります。 ・依頼先によっては、振込による支払いができない場合があります。 ・現金払いの場合、受け取りはこれまでどおり平日の9時～17時です。

知好楽セミナー報告

図書館では、今年度新たな試みとして、グローバル化時代を生き抜くための「知」と「心」を育む交流をコンセプトとして、「知好楽セミナー」を企画しました。「知好楽」は、論語より引用した言葉です。このセミナーでは、社会で生き抜くために必要な「知」の活用技術を磨くことを目的とするスキル編と、異文化・異世代・異社会との交流を通して「知」を「好」み、さらに「楽」しむ境地へと導くことを目的とする談話編の二本立てで、計4回開催しました。

第1回「若手研究者のための英語論文セミナー 理系編」

日時：平成26年10月29日（水）13:30～15:00

講師：Andrew Stephen Hillier 先生（京都大学）

参加者：103名

英語論文を書く上で大切な論旨を論理的に構成する手法や、論文の単位となるパラグラフの書き方について（スキル編）



第2回「大学生と論語」～なぜ論語の素養が求められるのか～

日時：平成26年11月27日（木）16:30～18:00

講師：景山哲臣先生（「声を出して論語」を主宰）

参加者：30名

「論語とは何なのか」「何故今論語が注目されているか」など、今求められている論語について（談話会編）



第3回「縄文スピリットから始まる新しい創造」

日時：平成26年12月18日（木）14:30～16:30

講師：猪風来先生、村上原野先生（猪風来美術館）

参加者：49名

縄文土器に隠された秘密、現代に受け継がれる日本人の心など、北海道の原野で縄文生活を体験された先生の命の根源に根ざした芸術について（談話会編）

第4回「レポートの書き方ワークショップ」

日時：平成27年1月19日（月）16:15～17:15

講師：宇都宮嘉宏先生（株式会社ベネッセコーポレーション）

参加者：45名

レポートの書き方の基本となる「ロジカルライティング」（=主張・意見とその根拠を論理的にまとめること）について（スキル編）

岡山大学入学予定者の入学前利用について（中央図書館・鹿田分館）

入学試験に合格され入学予定の方に対し、本学の充実した各専門分野の図書を利用することができるよう、新たに入学前利用のサービスを開始しました。

「まちなか連想ビブリオバトル」実施報告

ビブリオバトルとは5分で本を紹介し、最も読みたくなかった本を参加者全員で投票して決定する、という本の紹介コミュニケーションゲームです。発表者の魅力が伝わる読書活動として注目を集めており、この度、地域総合研究センター「まちなかキャンパス事業（職員企画）」の一企画として、大学と地域をつなぐ取り組みを実施しました。

実施内容

○第1回 リケジョ×まちなか連想ビブリオバトル
（於：中央図書館リフレッシュスペース）

平成26年8月8日（金）、附属図書館のオープンキャンパスイベントとして、理系分野で活躍する女性の岡山大学学部生・大学院生3名に理系の魅力が伝わる図書を紹介していただきました。高校生・保護者を中心に23名の方にご参加いただきご好評をいただきました。



○第2回 ESD×まちなか連想ビブリオバトル（於：岡山市立幸町図書館）

ESD（持続可能な開発のための教育）世界会議が岡山市内で開催されることに伴い、平成26年10月21日（火）、ESDに取り組んでいる4名の専門家の皆様によるビブリオバトルを開催しました。絵本から専門書まで幅広い範囲の図書を紹介していただき、24名の参加者が専門家ならではのエピソードに耳を傾けました。

○第3回 岡山市内大学生ビブリオバトル予選会（於：岡山県立図書館）

平成26年10月26日（日）、ビブリオバトルの全国大会である「京都決戦」への切符を競う「予選会」を開催しました。岡山市内の大学生・大学院生6名が発表を行い、14名の参加者が耳を傾けました。チャンプ本を紹介した学生は、岡山県立大学で行われた「地区決戦」へ出場。惜しくも「京都決戦」の切符は逃しましたが、熱意のこもったすばらしい発表を行いました。

池田家文庫絵図展報告

平成26年11月1日（土）～16日（日）、岡山シティミュージアムを会場に池田家文庫絵図展「岡山藩と明治維新」を開催しました。11月8日（土）には東京大学名誉教授の宮地正人氏による講演「幕末維新期の岡山」を開催し、会期中に延べ2,011人の方にご来場いただきました。

岡山大学公開講座「池田家文庫絵図をもって岡山を歩こう パート2」報告

平成26年5月の第1回と第2回に続いて以下のとおりに開催しました。

第3回「後樂園を歩く」

開催日：平成26年10月18日（土）

場 所：岡山後樂園

講 師：岡山県郷土文化財団 万城あき氏

第4回「岡山城外堀に沿って寺町を歩く」

開催日：平成26年11月29日（土）

場 所：岡山市立岡山中央小学校～大雲寺交差点

講 師：岡山空襲展示室 猪原千恵氏



中央図書館ミニ展示報告

中央図書館では、定期的に「ミニ展示」で資料を紹介しています。館内で見かけた際は、ぜひ足を止めご覧ください。9月からは以下のテーマで実施しました。



平成26年 9月 「リケジョ×ビブリオバトル紹介本」

10月 「ノーベル賞」

11月 「論語」*

12月 「縄文」*

平成27年 1月 「ESD&予選会ビブリオバトル
紹介本」

「ブックハンティング本」

「レポートの書き方」*

*知好楽セミナー連携

学生と附属図書館長との懇談会報告（中央図書館）

中央図書館では、平成26年度第1回学生館長懇談会を7月9日（水）に開催し、生協学生委員会、学生FD委員会、中央図書館学生アシスタントの学生5名とリニューアル後の新しい図書館の活用について意見交換をしました。新たに設置された学修スペース「ラーニングコモンズ」に関するご意見や、新たな図書館のイメージを定着させるための広報について積極的にご発言いただきました。

12月3日（水）には、留学生の方8名と、第2回学生館長懇談会を開催しました。自国の図書館と比較していただき、授業期の開館時間を早めることや、利用時に困った点についてご意見・ご要望をいただきました。

懇談会のご意見を受け、来年度4月より授業期の開館時間を8時からとすることが決定しています。少しでも使いやすい図書館となるよう、学生のみなさまのご意見を運営に役立てていきたいと思っております。

植物研分館 特別展示「初代所長 近藤萬太郎」開催報告

平成26年11月20日(木)～平成27年1月16日(金)まで、植物研分館では大原奨農会農業研究所(現・岡山大学資源植物科学研究所)の初代所長・近藤萬太郎の展示を開催しました。倉敷にありながら世界的な科学者だった近藤萬太郎を紹介するというテーマで、初公開の資料を数多く含む、有意義な展示となりました。研究所初代所長の偉大さを伝えることが出来たのではないかと考えています。

オリエンテーション・データベース講習会実施報告**○中央図書館**

中央図書館では平成26年9月～12月にオリエンテーション等を実施し、延べ74名の方にご参加いただきました。

オリエンテーション

実施日	対象者	参加人数
9月19日	マッチングプログラムコース新入生	3
9月30日	新任教員	1
10月14日	放送大学 学生	7

文献検索ガイダンス

実施日	対象者	参加人数
10月6日	法学部学生	1
10月14日	中国人留学生	14
10月16日	教育学部国語科	10

データベース講習会

実施日	講習会名	参加人数
12月10日(2回)	SciFinder	26
12月12日	Web of Science + EndNote Basic	9
12月12日	JapanKnowledge	3

○鹿田分館

鹿田分館では、平成26年10月～12月にデータベース講習会を開催し、延べ34名の方にご参加いただきました。

データベース講習会

実施日	講習会名	参加者数
11月20日、1月20日	文献検索の基礎	12
12月3日、8日	医中誌 Web + PubMed 入門	8
12月10日	UpToDate	8
12月12日	Web of Science + EndNoteBasic	6

ブックハンティング実施報告

中央図書館では、平成 26 年 11 月 19 日(水)「図書館のためのブックフェア 2014」岡山会場にてブックハンティング(学生選書ツアー)を実施し、参加者 8 名の選んだ 136 冊の図書を購入しました。

植物研分館では、平成 26 年 8 月 6 日(水)喜久屋書店倉敷店にて初めてのブックハンティングを実施しました。学生・教員 4 名で、合わせて 95 冊の図書を選択・購入しました。

専門書から一般書まで多様な資料が選択され、蔵書の充実と利用の増進に貢献しています。好評につき来年度も開催を予定しています。

教員からの寄贈図書リスト

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

<中央図書館>

外村直彦 [名誉教授]

Eight major civilizations ——朝日出版社, 2013.11 (209/T)

Feudalism : a comparative study ——Asahi Press, 2011.7 (362.04/T)

中塚幹也 [大学院保健学研究科]

騒がしい精子と卵子：子どもと話したい生殖医療

—— [岡山大学大学院保健学研究科中塚研究室], 2014.1 (F495.4/N)

福土純 [大学院社会文化科学研究科]

カナダの商工業者とイギリス帝国経済：1846～1906 ——刀水書房, 2014.5 (678.251/F)

三村聡 [地域総合研究センター]

労働金庫：勤労者自主福祉金融の歴史・理念・未来

——金融財政事情研究会, 2014.7 (338.75/M)

山本泰 [名誉教授]

わたしの水彩スケッチ日本紀行：もっと素晴らしい日本を発見

——リーブル出版, 2014.1 (291.09/Y)

<鹿田分館>

岡本玲子 [保健学研究科]

保健師による東日本大震災復興支援プロジェクト報告書：平成 23 年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分)「地震による津波で被災した一人暮らし高齢者・高齢者世帯の生活再構築のための支援過程の構造化」事業

——岡山大学, 2012.3 (369/HO)

保健師による東日本大震災復興支援プロジェクト ——岡山大学大学院保健学研究科コミュニティヘルス看護学領域岡本玲子研究室, [2012] (369/HO)

- 中塚幹也 [保健学研究科]
騒がしい精子と卵子：子どもと話したい生殖医療
——[岡山大学大学院保健学研究科中塚研究室], 2014.1 (495.4/NA)
- 小畑隆資 [名誉教授]
基本的人権の政治学 (あなたとともに考える人権ブックレット 2)
——岡山県民主教育研究会, 2014.3 (316.1/OB)
- 岡山大学出版会からの寄贈図書リスト**
- 安藤美華代 [教育学研究科] 監訳
外傷後悲憤障害 ——岡山大学出版会, 2014.3 (493.7/G)
- 亀川哲志 [自然科学研究科]
システム工学実験：Unix 環境でのプログラム開発と ODE を使った動力学シミュレーション
——岡山大学出版会, 2014.3 (F509.6/K)
- 豊田啓孝 [自然科学研究科], 高橋智 [自然科学研究科], 鶴田健二 [自然科学研究科],
矢納陽 [自然科学研究科], 渡邊桂吾 [自然科学研究科]
工学系の微分方程式 ——岡山大学出版会, 2013.10 (413.6/K)
- 浜田淳 [医歯薬学総合研究科], 齋藤信也 [保健学研究科]
医療経済学・地域医療学 ——岡山大学出版会, 2014.6 (498/I)
- 山田剛史 [教育学研究科] 監修
カ・ラマ・クイ：ハワイの心理学 ——岡山大学出版会, 2014.10 (140.276/R)
- 松田陽一 [社会文化科学研究科]
組織変革マネジメントへの招待：抵抗の除去とチーム医療の活用
——岡山大学出版会, 2014.3 (498.163/M)
- 松田陽一 [社会文化科学研究科], 藤井大児 [社会文化科学研究科]
リーディングス組織経営 改訂版 ——岡山大学出版会, 2014.3 (336.3/R)
- 山本宏子 [教育学研究科]
音楽文化：祭・芸能・音楽からみた世界 ——岡山大学出版会, 2014.5 (F761.1/Y)
- 渡辺雅二 [環境生命科学研究科]
応用解析のための微分方程式入門 ——岡山大学出版会, 2014.6 (413.6/W)

会議

◆学外

26.9.9	平成26年度第2回岡山県大学図書館協議会研修委員会（於：ノートルダム清心女子大学）	26.11.28	機関リポジトリ推進委員会ワーキンググループ会議（於：国立情報学研究所）
26.10.17	平成26年度第3回岡山県大学図書館協議会研修委員会（於：岡山大学）	26.12.18	平成26年度第4回岡山県大学図書館協議会研修委員会（於：川崎医療福祉大学）
26.11.13～14	第50回日本医学図書館協会中国四国地区総会（於：山口大学）	26.12.19	平成26年度国立大学図書館協会中国四国地区実務者会議（於：鳥取大学）
26.11.19	全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクト実務者連絡・調整会議（於：大阪大学）	27.2.6	平成26年度国立大学図書館協会中国四国地区協会事業委員会総会（於：岡山大学）
26.11.28	平成26年度中国四国地区国立大学図書館所管部課長会議（於：岡山大学）	27.2.8～12	10th International Digital Curation Conference（於：イギリス 30 Euston Square）

◆学内

26.11.18 平成26年度第3回附属図書館運営委員会

研修

- 平成26年度大学図書館職員短期研修
参加者 田中 智 (10.7～10)
- 第55回中国四国地区大学図書館研究集会
参加者 市地 七実子 (10.9～10)
- 平成26年度岡山大学若手職員塾
参加者 大園 隼彦 (10.10～12.5)
- オープンアクセス・サミット2014
参加者 田中 智 (10.21～22)
- オープンアクセスウィーク・ワークショップ
参加者 遠矢 厚志、難波 麻紀 (10.22)
- 総括主査研修
参加者 犬飼 恵美子 (10.28～29)
- 第16回図書館総合展
参加者 川上 研三、中 京子、岩佐 美紀 (11.5～6)
- 平成26年度国立大学法人岡山大学中堅職員研修及びメンタルヘルス研修
参加者 藤井 香子、田中 智、中 京子(11.17)
- 平成26年度京都大学図書館機構講演会
参加者 川村 眞 (12.11)
- 男女共同参画に関する管理職セミナー
参加者 山田周治、川村 眞 (12.17)
- 平成26年度国立大学図書館協会中国・四国地区協会ワークショップ
参加者 市地 七実子 (12.18)
- 平成26年度国立大学図書館シンポジウム
参加者 中 京子 (1.28)
- Digital Curation Centre ワークショップ
参加者 大園 隼彦 (2.13)

編集委員会から

附属図書館で働き始めてもうすぐ1年が経ちます。入ってすぐに中央図書館と鹿田分館がリニューアルオープンし、新しい図書館をたくさんの方にご利用いただいているのを見るとうれしくなります。さて、中央図書館では平成27年4月に、本館2階・3階の東部分のリニューアルオープンを予定しています。特に、本館2階部分には、“サルトフロresta”～飛翔の森～という森をイメージした新スペースを設け、みなさんの学びがより広がっていくのではないかと思います。さらに新しくなる図書館で、みなさんにすてきな本との出会いがあるように願っています。(N.I.)

岡山大学附属図書館報「楳」 No.60 平成27年2月28日

発行人 山田周治 編集 広報誌編集委員会

岡山大学附属図書館発行 〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目1-1

ホームページ URL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>